
静内ケアセンターだより 10月30日号

孤立死が北海道でも 2155 人！

「昨年一年間に誰にも看取られないで自宅で亡くなった一人暮らしの人」がこの数である。死因は全体の約半数が虚血性心不全などの循環器疾患で、多くが突然死とみられる。(自殺を除く)年代は男性が65歳～69歳、女性は85歳以上だった。独身の人が増えてるし、男性は妻に先たたれると、何もかもできなかつたり、交友関係も狭く孤立するケースが増えている。周囲との付き合いもしないので周囲の人拒否されれば助けることもできない。このようなケースは介護情報を得て”助けて”を出してくれれば救えるケースもあろう。男性の65歳～69歳が多いのは、高齢者問題より社会問題と言えよう。

私の所のグループホームや有料老人ホームで暮らす70人の平均年齢が90歳、要介護度が3、認知症があり合併症の人達であるが、みなさん幸せそうであり「平穏死」で旅立っていく。ある意味では最高の高齢者時代かもしれない。その視点からすれば、介護する側の幸せがもっとあっていい。幸せは、家族や介護職員の犠牲の産物であってははいけない。


